



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(26)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部



教区の皆さん、こんにちは！

新任地で働く七人の司祭たち

復活祭後、人事異動で新しい任地に赴いた司祭たち。その中には教区外から初の、また久しぶりの鹿児島での働きとなる司祭がいた。昨年フィリピンで叙階され、その後日本語習得のために教区外にいた二人のベトナム人司祭もいよいよその活躍を見せてくれる。そんな新任地で働く司祭たちを紹介したい。

- ①出身地②特技・趣味③好きなみことば・抱負④年齢【写真は二面に掲載】
- ▼ヨゼフ・グエン・ホグ・タム神父 (教区司祭・鹿屋教会助任)
- ①ベトナム ②読書、釣り、料理 ③「主は羊飼ひ」 ④一生懸命頑張りたい。

- 32歳
- ▼ヨハネ・ファン・ティエン・ドワン神父 (教区・小宿教会主任)
- ①ベトナム ②小教区管理 ③「お言葉通り、この身になりますように」。信者の様々な思いやタレントを一つにまとめた
- ④32

- ▼坂本 進神父 (神言会・種子島教会主任)
- ①長野県 ②西郷隆盛の研究 ③西郷隆盛の「敬天愛人」を新任地で生かすこと。種子島とギリシヤの心、屋久島のシドゥチ神父の布教の心を全国に発信すること ④62歳
- ▼山口好信神父 (カルメル会・鹿屋教会主任)
- ①長崎県 ②阿波踊り ③仕事をしっかりとやること。でも、ぼちぼちやること ④53歳

- ▼榊 修神父 (コンベンツアル会・古仁屋教会主任)
- ①静岡県 ②マジック ③ただイエス様の福音を宣べ伝えたい ④51歳
- ▼平 孝之神父 (コンベンツアル会・古田町教会主任)
- ①鹿児島県 (大熊) ④41歳
- ▼松永正男神父 (コンベンツアル会・大笠利教会主任)
- ①長崎県 ②カメラ「神によって創られた美しい奄美の自然界をレンズでとらえたい」 ③三十年ぶりの再赴任。世代交代が進む中、当時お世話になった人たちとともに祈りをささげたい。 ④67歳

新風

教会の伝統によつて五月は聖母マリアに捧げられた月です。青葉若葉が香り花々が咲き乱れるこの季節、いやがうえにもマリア様を賛美したくなる季節です。典礼暦でいえば聖霊降臨の季節です。それは教会の誕生日でもあります。マリアと聖霊と教会、これらは深くつながっています。まず、マリアは聖霊によつて神の子イエスを身ごもり(ルカ福音書一章35節)、聖霊降臨のときマリアは使徒たちとともにいました。(使徒言行録一章13節参照) もちろん、

聖母月に寄せて

イエス様の十字架の下にも佇んでいました(ヨハネ福音書一九章25節)。イエス様の救いの業に寄り添うよう行動していますし、教会の歩みとも一致しています。マリア様を慕うことは教会を愛し、イエス様を求めることになり、マリア様の姿はわが子を愛し、一時もその存在を忘れられない母親の愛そのものだからです。マリア様は、御子イエス様をわたしたちに示し、彼の言われる

ことに従うように促す方でもあります。カナでの婚礼の席上、マリア様は召使たちに「この人(イエス)が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」(ヨハネ福音書二章5節)と言いました。情報化社会を生きている私たちは人より多くの情報を得ることで人より優位に立ちたいと思つています。しかし、豊富な情報が真に豊かな実を結ぶためにはマリア様のように「心に納めて」神様の意図が何であるかを思い巡らすことが大切であると思

貴島神学生

フィリピンへ留学



ふわりとした感じ。これが教区大神学生貴島丈弥さんに対する印象。何かを強烈に主張するわけでもなく、かと言って流されているというのでもないさそう。ただ周りと摩擦を起こさないでそこにいる。そして温かさを感じさせてくれるという不思議な魅力を持つ若者である。

日、フィリピンへと向かった。教区から託されたのは青少年養成のプログラムを学ぶため。これからフォンダシオ・アジアの養成プログラムに、実習を含めアジアの仲間たちと三年間その身を置くことになった。とは言え、三月八日に朗読奉仕者に選任された神学科の一年生である。司祭叙階まであと三年余りというこの時期に休学してまでの留学に不安はないものか、聞いてみた。「ま、いいんじゃないですか」とニコニコ顔。聞けば大神学院への入学も、主任司祭が背中を押したのに「はい」と従っただけと言った。まさかこんな時でも希望の方に顔を向ける人である。そんな彼の成長を祈りたいと思う。

カテドラルで 聖香油のミサ

聖木曜日の四月九日、鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂で恒例の聖香油のミサがささげられた。司祭職制定の記念日にささげられるこのミサは、司

教と司祭の強い絆が確認されるもの。この日は教区各地で働く司祭たちのうち三十人が駆けつけ郡山司教を囲んで、百二十人余りの信者たちとともに祈りをささげた。説教した司教は「日本は混んとしている。そして働く私たちが弱い。しかしこの弱い私たちが主の霊が働いていることを自覚し、信徒一人ひとりの自由のために働いていこう」と司祭たちにメッセージを送った。

サ中に聖別・祝別された聖香油・洗礼志願油・病者のための油を自分の担当小教区へと持ち帰った。六月から 相談員養成講座 鹿児島きぼうの電話



教会の耳となつて苦しむ悩む人々の声を聞き続けている「鹿児島きぼうの電話」(山口弘子運営委員長)では、今年も六月から電話を取ってくれる相談員の養成講座を始める。詳しい日程は現在講師と調整中だが六月十二日(金)に説明会を開き、十九日(金)十九時からスタートさせるとしている。受講料は七千円(但し受講経験者は無料)。 十二日の説明会は十四時と十九時の二回。問合せは山口弘子運営委員長(携帯)〇九〇一一一六二二七三七二二)あるいは辻聡事務局長(携帯)〇九〇一一四八八一九六八〇)まで。

YET

「最後の僅かな望みが消え去った」大好きな先輩がポツリと呟いた。半年前の定期検診では異常のなかった体がガンに蝕まれていたのが分かった彼。その第一報を届けてくれたときでさえも「胃を全部摘出するぞうです。それでも生きられれば」と笑っていた彼だった。それが検査の度に「リンパ節へ転移」とか「ス

キルス性」とか「腹膜播種」だとか判明し、手術できないことになった▼それでも希望を捨てなかつた彼は、他の病院での治療にかけた。いとして東奔西走したが、その後の連絡で「もう手の打ちようがない。抗がん剤治療を始めなければ三か月。しても長くて二年」の宣告を受けたという。かける言葉も失ってしまった▼「死を誰もが迎える」そんなことは分かっている。だから見舞いの席で「今の現実を受け止めて」「限られた命を精一杯」「質の高い生き方を」なんて言つてはみたものの、でもどれも彼の救いにはならない陳腐な言葉のように思えた▼後輩は死をどう捉えているのだろう。「死はその人から世界が消えること」と表現する人がいた。きつと孤独の最たるものということなのか。時が経てば後輩は受け入れるのだろうか。最期の最後の時に、大いなる力の慰めを味わうことを信じられるだろうか。とは言え、一度も彼にキリストを伝えようとしたことのないささげない自分である。

ご存知ですか？ 私たちの顔

鹿児島教区の牧者たち

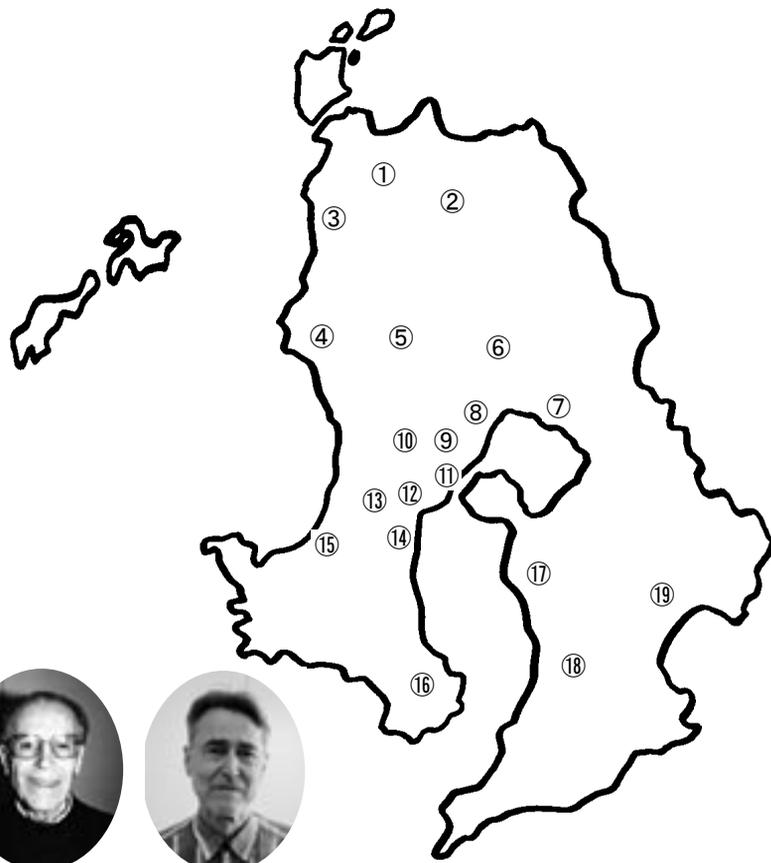
(2009年)



鹿児島教区長 郡山健次郎司教



名誉司教 糸永真一司教



種子島



⑪ザビエル教会 ティエン神父



⑫鴨池教会 小川靖忠神父



①出水教会 大松正弘神父



②大口教会 レヒナ神父



③阿久根教会 山口重義神父



④川内教会 橋口啓悟神父



⑤入来教会 アッシャー神父



⑥マリア山荘 永山幸弘神父



⑦国分教会 国原武志神父



⑧始良教会 東 研神父



⑨吉野教会 牧山田一神父



⑩玉里教会 ロベルト神父



⑪ザビエル教会 中野裕明神父



⑬紫原教会 竹山 昭神父



⑭谷山教会 ムイベルガ神父



⑭谷山教会 フリチェル神父



⑭谷山教会 ハンマ神父



⑮加世田教会 泉 浩二神父



⑯指宿教会 寝占敦之神父



⑰垂水教会 担当 松森孝郎神父



⑱鹿屋教会 山口好信神父



⑱鹿屋教会 タム神父



⑲志布志教会 美島春雄神父



⑳種子島教会 坂本 進神父



奄美大島

瀬留教会



①大笠利教会 松永正男神父



③大熊教会 アン神父



④名瀬教会 小隈憲士神父



⑤古田町教会 平 孝之神父



⑤古田町教会 柳本繁春神父



⑥小宿教会 ドゥン神父

沖永良部島

徳之島



⑦古仁屋教会 榊 修神父



⑧母間教会 福崎英雄神父



⑧母間教会 メニヒ神父



⑨和泊教会 ハヌス神父



大島地区長館 大野和夫神父



教区本部 松田清四朗神父



教区本部 ディーノ神父



純心学園 岡 俊郎神父



神学院 末吉卓也神父



聖マリア学園 田原 章神父



長崎恵の丘 田辺 徹神父



東京在 成相明人神父



出向 浜崎真実神父

信仰と漢字(六)

純心学園 岡 俊郎

火山灰全てを覆う重苦し
きよ魂心育たん

桜島の火山灰がこんな
にまで降ってくるのかと
びっくりしました。同時に
いろんな思いが湧いてきま
した。

純心学園の真正面に何
時も輝いている桜島を見な
がら日々を過ごしている自
分の信仰をもっと深め、力
強く生き、味わう人間にな

れとの励ましを頂いていま
す。純心とは「魂が生きて
活きになる」ことだと自分
に言い聞かせながら、シス
ター方と毎朝ミサを捧げて
います。

「純」は意味を表す糸と、
音を表す屯とを合わせた
字、形声字です。ジュン
の音の表す意味は善です。「善
美なる生糸」の意味ですが、
糸の意味が脱落して「混じ
り気のない」意
味となりまし
た。字源辞典(加
藤常賢著)に教
えてもらった漢
字の意味は、信
仰の働きによつ
て、成長発展し
救いへと一人ひ
とりの人間を導
き励ましてくれ
ます。



棟は13m。写真は着々と進
む旧ザビエル聖堂再生工事の
様子(宗像市)

骨組み着々と 旧ザビエル教会再生

「混じり気
のない心」と
命の働きに目覚め、体の欲
に溺れず、欲に振り回され
ず、その天から授かった命
の働きが、体の隅々にまで
染み透って、やる気満点の
日々を過ごすことでしょう。
命に関しては、天からの
教え・叫びとしての働きの
ので、親子の道となり、神
とも親子の道となる生き
様・働きの道です。心から
「天におられる私たちの父
よ」と語りかける祈りは、
生き抜く自信となり、心
安らぐ魂、生き活き生涯と
なるでしょう。信仰生活が
どんなにすばらしい偉大な
大仕事であるかを悟らせて
頂けるのです。体の働きの
命そのものの働きの調和よ
く、ひとりの人間として、
噛みしめ味わう日々です。
魂はますます生き活きと人
生を味わいます。

神のいつくしみの主日に
「わたしの主、わたしの神よ」
(ヨハネ20・28)と叫んだ
使徒トマス的心を思いやり
ました。トマスは十二使徒
の一人に選ばれたにもかか
わらず、体の脳の働きが勝
れていたためでしょうか、
救い主の生き様・救いの業
に心から信頼し、従い、就
いていくことができなかった
のでしょう。

救い主の復活なされた体
が、命の輝きの一つになつ
て輝いているのを見て、信
仰の力強い働きを味わった
のでしょう。主とは体を燃
やし尽くして家族や周りの
人々を明るく温かく生きる
ようにして下さった救い主

なのです。神を信じて生き
ることこそ、体を尽くし、
心を尽くし、命の源である
方に全てを委ね、神の親心
を味わうのです。神の親心
を味わう一日一日は、やる
気満点で、聖者パウロの信
仰を益々力強い、豊かな生
き様に仕立て上げたに違い
ありません。

桜島が朝日の中に輝いて
見えるとき、自分も神の親
心の中で「わたしの主、わ
たしの神よ」と魂生き活き
に生きる確信を頂きます。
生活が、体の生き様として
は「主よ」と叫び、命の働
き(本当の生き様)として
は「神よ」と祈る日々を心
から噛みしめていると思う

文芸

純心学園 岡 俊郎

聞く人を指して日々のにこにこが壊
れる度にわが性を責め

純心学園 徳永ノブ子

復活祭近づく街の花ゆたか

純心学園 山頭 信子

クローバーを初聖体の花束に

純心学園 川上 和

琴の音や奏でる人も桜色

国分政 ノブ子

復活祭受洗の友は晴れやかに

鹿児島 春山マリ子

神様に見る思いとはこんな物

純心学園 川上 和

鳥唄を聞きながら眠るわが子将来唄者
かな

純心学園 川上 和

マリア様ナザレの暮らしそのままに今
を生きよとささやきかけり

鴨池 前田 儀子

母が草抜きいし様に吾も草を抜く石の
上に蜥蜴息づく

純心学園 川上 和

鳥唄を聞きながら眠るわが子将来唄者
かな

純心学園 川上 和

マリア様ナザレの暮らしそのままに今
を生きよとささやきかけり

鴨池 前田 儀子

母が草抜きいし様に吾も草を抜く石の
上に蜥蜴息づく

で移動し、浦上天主堂、平
和公園へ行きました。今ま
での巡礼や旅よりも「教区
の仲間」という新しいグルー
プでの活動だったので楽し
く、また新しい発見や平和
について考えることができ
ました。二日目は、コルベ
記念館、ルルド、その後大
浦天主堂へ行きました。そ
して時津から西坂まで三時
間かけて、二十六聖人のた
どった道を歩きました。こ
の巡礼で自分の知らなかつ
た長崎の殉教者についての
ことや歴史を知ること、
多くのお恵みをいただきま
した。これからは横浜での
生活を有意義に過ごしてい
きたいと思えます。

二つの喜び
加世田・枕崎教会

私たち加世田小教区は今
年の復活祭に三つの喜びと

「癒しと祈りの集い」始まる
指導：坂本 進神父(種子島教会)
場所：ザビエル教会ホール
日時：毎月第3月曜日10時~12時
受講料：500円
※5月は18日(月)に開かれます。



恵みをいただいた。一
つは昨年に引き続き一人
の受洗者があったこと。
もう一つはミサ後総勢
二十四人で、巡礼指定教
会である玉里教会を皮切
りに、カテドラル・川内・
東市来を巡礼したこと。
そして最後は、教会へ来
ることのできない施設入
居者のお年寄りを訪問し
たこと。笑顔・涙の喜び
と恵みの一日だった。

+KABAYAN SEKSIYON+

"Ang Pananampalataya at ng Tatlong Katanungang Di-Lumilipas"

Samakatuwid, mula sa puso ang pananampalataya: ang nagmamahal, nagtitiwala at umaasa sa Panginoon na nagmumula sa pagmamahal ng Diyos na dumadaloy sa ating mga puso. Ang nagtitiwalang pananampalataya ay "nabubuhay at lumalago sa pamamagitan ng ating panalangin at pagsamba"-isang personal at taos-pusong pakikipag-usap sa Diyos na taliwas sa di-isinasalob at mekanikal na pag-uulit-ulit ng isinaulong mga pormula ng dasal. Nakatatagpo ang tunay at personal na panalangin at panalangin nang sama-sama ng kanilang bukal ng inspirasyon at rurok ng kaganapan sa liturhiya, ang opisyal na pangkalahatan at Santatuhang pagsamba ng Sambayanang Katoliko sa Ama sa pamamagitan ni Jesu-Kristong ating Panginoon, sa Espiritu Santo.

Ang tatlong aspeto ng ating Pananampalatayang Kristiyano-paniniwala, pagkilos, at pagtitiwala sa panalangin ay tumutugon sa tatlong katanungang di lumilipas na itinatanong ng bawat tao sa buhay, at tungkol sa bantog na tatlong kahulugan ng pananampalataya ayon kay San Agustin. Sa katanungan "Ano ang maaari kong malaman?" tumutugon ang Pananampalatayang Kristiyano na maaari nating malaman ang Diyos bilang Ating Ama at si Kristo bilang Ating Panginoon. Alam nating tayoy anak ng Diyos... At nalalaman nating naparito ang Anak ng Diyos at binigyan tayo ng pang-u nawa upang makilala natin ang tunay na Diyos. Pagkilala sa Ama, sa Anak at sa Espiritu Santo.

"Ano ang dapat kong gawin?" ay tuwirang sinasagot ng "sundin ang Kanyang mga utos" na nangangahulugang "huwag umibig sa pamamagitan ng salita o wika lamang. Ipakita ang tunay na pag-ibig sa pamamagitan ng gawa". Humihingi ito ng pagkilos ayon sa pagiging kapa ni-paniwala ng aral ng Diyos kay Kristo bilang totoo at maasahan.

Pangwakas, sa tanong na "Ano ang ating maasahan?" Ipinagdiriwang ng Pananampalatayang Kristiyano sa panalangin at sakramento ang matibay na pag-asang "ang kamatayan, ang buhay, ang mga anghel, ang mga pamunuan, ang mga bagay sa kasalukuyan, ang mga bagay na darating, ang mga kapangyarihan, ang kataasan ang kalaliman, o ang alinmang nilalang ay hindi makapaghiwalay sa atin sa pag-ibig ng Diyos-pag-ibig na ipinadama niya sa atin sa pamamagitan ni Kristo Jesus

催し物のご案内

マクロビオテック
●正食料理教室のご案内 正食の二大原則である身土不二(体と環境はひとつ)と一物全体(生命あるものはまるごと頂く。米なら玄米。野菜は皮付きのまま)を教えるながら私たちの食生活を見直しませんか。男性の参加も可。講師：角屋敷まりこ正食協会料理講師 6月17日(火)10時~15時 ザビエル教会ホール 定員：25人 参加費：2,000円 エプロン、三角巾、筆記用具を持参のこと。参加希望者は植村まで。TEL& 0995-43-3796

●第11回夏期哲学・神学講座
スピリチュアルケアワーカー養成カリキュラムの一環として毎年開催 ※スピリチュアルケアワーカー研修生以外も受講可 日本カトリック神学院福岡キャンパス 7月30日(木)から8月8日(土)までの10日間で10科目を受講 受講料全科目で25,000円(一科目3,000円) 宿泊は女性のみ(一泊5,000円) 申込締切は6月30日。申込問合せはNPO臨床パストラル教育研究センター本部事務局(Tel 03-3700-3425 / 03-3700-3427)まで

長崎巡礼感想
吉野教会 高竿胤人
私は二泊三日の長崎巡礼に初めて参加しました。今回の長崎は、今までの修学旅行や巡礼とは違い、詳しく、時間もゆつくりで、内容の濃いものでした。鹿児島から長崎までバス

三つの喜び
加世田・枕崎教会

私たち加世田小教区は今年
の復活祭に三つの喜びと



二つの喜び
加世田・枕崎教会